

## ◆今期間のポイント

## &lt;主要じょう乱の概要&gt;

- 1月2日は、冬型の気圧配置だが、高気圧が日本の南を東へ移動する。
- 3日は、冬型の気圧配置が続くが、気圧の谷が東日本付近を通過する。
- 4日から5日は、北日本中心の冬型の気圧配置が続くが、5日は高気圧が日本の南を東へ移動する。
- 6日は、気圧の谷が日本付近を通過する。

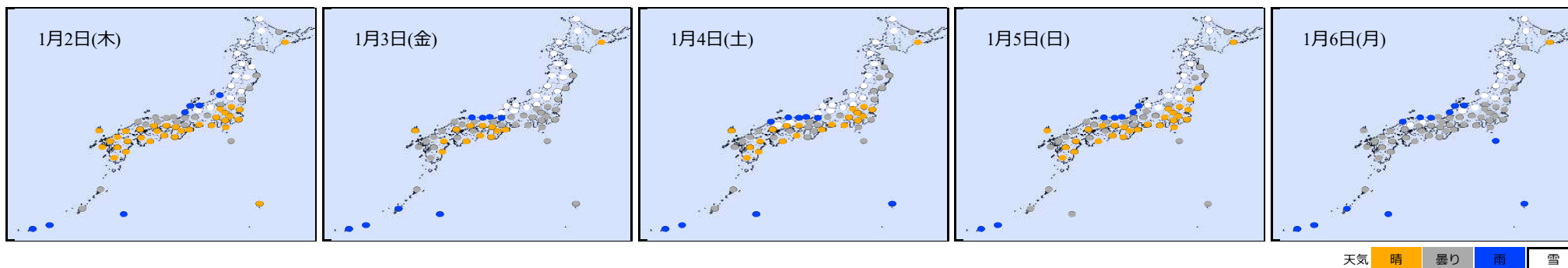
## &lt;防災事項&gt; 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

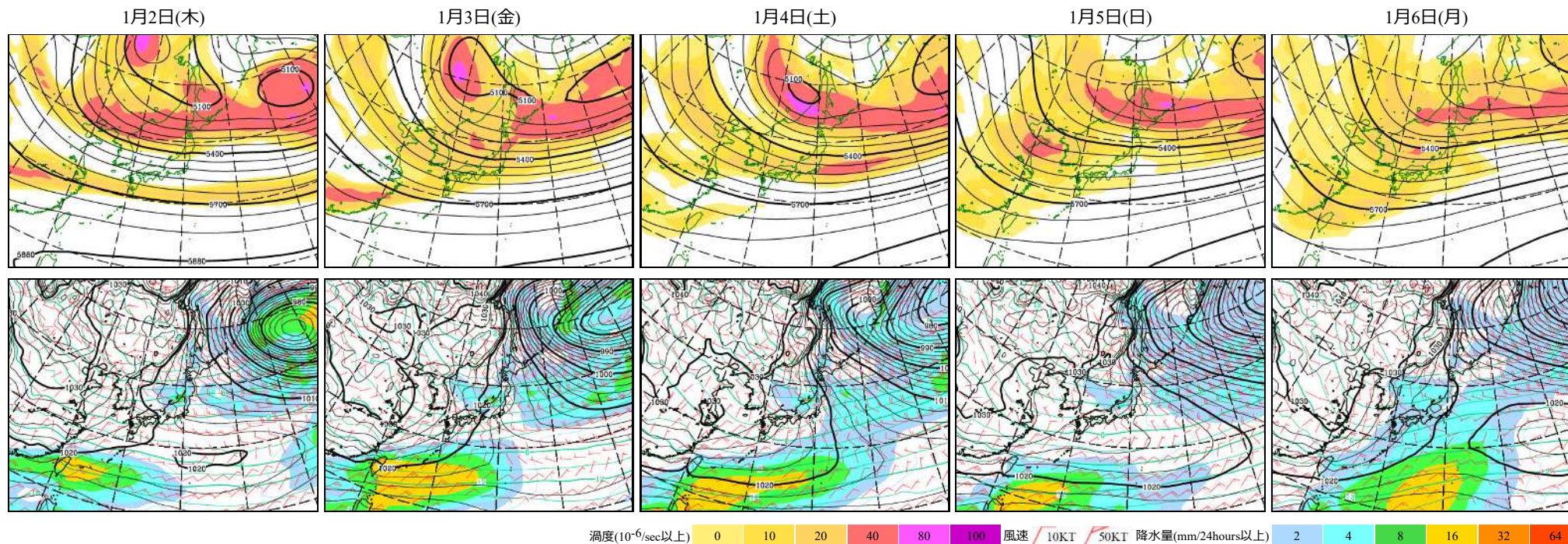
## ◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)



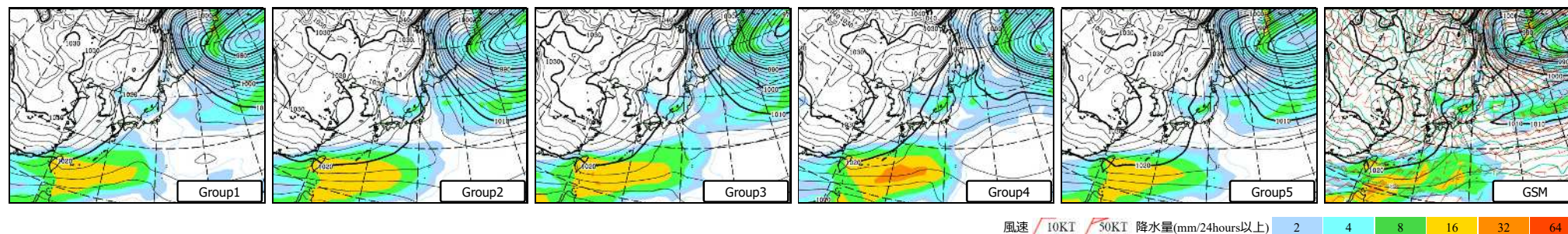
- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る所が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、晴れまたは曇りの所が多い。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の日が多い。



◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆1月3日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、1月2日から3日は大陸からの高気圧の張り出しが弱まり、日本付近の冬型の気圧配置が弱まった。期間の後半も日本付近の気圧が高くなる一方、大陸の高気圧は弱まる傾向で、冬型の気圧配置が弱まった。
- スプレッドは期間の終わりに大きくなり、5400mの特定高度線のばらつきが見られる。
- 降水確率ガイダンスは前初期値との差は小さい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。